

シリーズ
原発・いのち・みらい
その11

第三回核兵器廃絶国際行動デー

「被ばく証言を聴く会とウクライナの歌姫 ナターシャ・グジーコンサート」を終えて

白崎 良明 (金沢市・内科)

核戦争を防止する石川医師の会第二十五回総会記念企画「被ばく証言を聴く会とウクライナの歌姫ナターシャ・グジーコンサート」は、核兵器廃絶国際行動デーの一環として、六月十日に石川県教育会館で行われた。当日はいくつかの行事が重なり、多くの人に来てもらえるのか不安であったが、当日、都合が悪くなり、作成された映像と証言を事務局の小野栄子さんが代読した。東海北陸地方在住の



後に火災で焼失することになる被爆体験画を中田喜重さんがカメラに収め保存していた (写真は被爆者のメッセージと中田さんの被爆証言を代読する様子)



書籍販売コーナーでは原発の危険から子どもを守る北陸医師の会が翻訳された『チェルノブイリの恐ろしい健康被害』が完売となるなど大きな反響があった (写真は「チェルノブイリ原発事故の健康被害」について報告する吉田均先生)

感想が寄せられた。小野さんの代読は心にしみいるような間合いと重厚な語りで、まさに中田さんの被爆証言を聴くにふさわしいものであった。「チェルノブイリ原発事故の健康被害」について話された「原発の危険から子どもを守る北陸医師の会」の吉田均先生(能美市・小児科)は、冒頭で六月八日に出された野田首相の大飯原発再稼働宣言が国民の生



被ばく証言を聴く会に先立って行われた「白衣の街頭キャンペーン」では「核兵器・原発NO!」のアピール風船を手渡し、核兵器全面禁止アピール署名への協力を呼びかけた

活を守るためではなく、大企業を守るためのものだと痛烈な批判をされた。また、小児科医の立場から、チェルノブイリ原発事故の被害の実情を翻訳した『チェルノブイリの恐ろしい健康被害』原野大惨事から二十五年の記録』の内容を説明されたが、子どもに虚血性心疾患が見られたというデータには驚かされた。「福島に活かすためにもっと知りたい」という感想が多く、用意した翻訳本も完売となり、追加注文まで寄せられた。

ウクライナの歌姫ナターシャ・グジーさんのコンサートでは、透き通る歌声に心が洗われる思いがした。すべての感想文に「心に響く歌声に感動した」との声が寄せられた。彼女が語るチェルノブイリ原発事故の模様と「ふるさとにはもう帰れない」という重い事実は、深く心にしみこんだ。最後に会場と一体となって歌われた「ふるさと」

『原発・いのち・みらい』プロジェクト
意見交換会の参加者募集中!

保険医協会では東電福島第一原発事故に対し、事実の検証と今後のエネルギー政策を考えるため、「原発・いのち・みらい」シリーズと称してこれまで4回の講演会と石川保険医新聞で11回の連載を重ねてきました。この度、シリーズを発展させつつ保険医協会として取り組むべき課題を議論し対応していくため、『原発・いのち・みらい』プロジェクトを立ち上げることになりました。

プロジェクトの始動に先立ち、シリーズの今後のあり方や企画などを自由にお話しいただく「意見交換会」を開催します。多くの会員の先生方のご参加をお待ちしています。参加希望の方(保険医協会の会員に限る)は、保険医協会までご連絡ください。

「原発・いのち・みらい」プロジェクトの意見交換会
と き / 7月24日(火) 午後7時30分から9時ごろまで
と ころ / 石川県保険医協会 会議室
金沢市尾張町2-8-23 太陽生命金沢ビル8階
電話076-222-5373

最近の理事会の特徴という点だと思ふ。今回の理事会では、保団連代議員会の議題について検討を行った。休保制度の認可に向けた対応では、一刻も早い休保再開を求めていく立場で賛成することとした。歯科医療改革提言の改定案(中間報告)については、歯科理事から強い異論が示され、歯科部として検討することになった。意気軒昂な雰囲気であった。

次回で保団連からの組織討議依頼のあった休保討議し賛成することとした。さらに勤務医労働実態調査二〇一二に協力することを確認した。

第4回 理事会点描
今回も時間延長で
(6月5日・12人出席)

再開にあたっての募集停止期間中に加入年齢を超えた会員に特別措置を実施することについては、その他、総務部からは、社会保障と税の一体改革対策や、子ども医療費助成制度改善運動など、歯科部からは歯科学術講演会、歯科保険診療の研究を利用した勉強会など、学術・保険部からは、よろず勉強会、医師とコメディカルのための企画、医療福祉部からは『病院マップ』の協賛企業のため、各種訪問取材、機関紙・文化部からは『石川保険医新聞』の企画などが報告された。意識して早く終わるように努めたが、結局いつもと同じ時間延長になってしまった。

【大川 記】